

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-エ	自然環境の適正利用	施策	② 自然環境の持続可能な利用の促進	
			施策の小項目名	○自然環境を利用するルールづくりの推進	
主な取組	やんばる型森林施業推進事業			実施計画記載頁	22
対応する主な課題	③いわゆるブルー・ツーリズムなど自然環境を資源として利用する経済活動により一部自然環境の劣化がみられることから、適正な環境保全と利用のルールを定め、自然環境の保全と経済活動の両立を図る必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
環境と調和したやんばるの森林の利活用を図るため、環境負荷低減や環境に配慮した収穫伐採方法等の手法検討や実証を行う。						
実施主体	県	環境に配慮した収穫伐採手法とその作業システムの構築				
担当部課【連絡先】	農林水産部森林管理課	【098-866-2295】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	やんばる型森林施業推進事業費						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 環境と調和したやんばるの森林の利活用を図るため、実証試験を1件並びに作業システム(案)及び林事前環境調査手法(案)の作成を行った。 ○R元(H31)年度: 環境と調和したやんばるの森林の利活用を図るため、実証試験を2件並びに作業システム及び林事前環境調査手法の作成を行う。
							一括交付金(ソフト)	委託	
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: — ○R元(H31)年度: —
							—	—	

様式1(主な取組)

活動指標名	環境に配慮した収穫伐採手法とその作業システムの構築				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	実証試験 1件	—	100.0%	18,252	順調	活動概要 国頭村内の県営林の1箇所において、高性能林業機械(タワーヤーダ)を用いた収穫伐採の実証試験を実施し、またその前後に環境調査を実施した。 また、林業従事者等が行う事前環境調査手法の素案に基づいた検証を行うことが出来た。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度 of 取組改善案						反映状況				
① タワーヤーダを用いた実証試験を継続するとともに、これまでの方針で伐採幅を20m程度としていたものを、40m程度に広げ、収支及び環境負荷を検証していく。						① 伐採幅を40m程度に広げたことで収支の改善が図られた。また、環境負荷についても大きな変化は見られなかった。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・収支の改善は図られたが、伐採幅や作業手順等においてまだ改善の余地が残された。

○外部環境の変化

・世界自然遺産登録に向け、環境に配慮した収穫伐採手法の確立が求められている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・実証試験を継続し、作業員の機械操作技術を向上させる必要がある。
- ・さらに収穫面積を広げ、収穫伐採に係る収支の改善を図る必要がある。
- ・林業従事者等が継続できる事前環境調査手法を検討する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・タワーヤードを用いた実証試験を継続するとともに、伐採幅若しくは延長を広げ、収支及び環境負荷を検証していく。
- ・林業従事者や有識者の意見を反映させながら、事前環境調査手法を検討していく。